

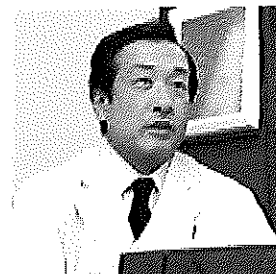
平成 27 年度 第 2 回学術講演会のご案内

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

口腔・顎・顔面機能再生制御学講座

咬合・有床義歯補綴学分野教授

皆木省吾先生 御講演



日時： 平成 27 年 11 月 28 日 (土) 午後 7 時～午後 9 時

会場： 高松市歯科救急医療センター

演題： 『フレイル、サルコペニアを支える超高齢者の総義歯製作・調整法』

— 大規模災害時の義歯作製法も含めて —

【皆木先生 抄録】

日本の超高齢社会化に伴い摂食嚥下に関する関心が急速に高まり、これに伴ってソフト食の社会的認知は高まりマーケットとしての大きな広がりを見せている。この現状を受けて農林水産省は、食品の硬さや食べる機能の状態（咀嚼能力・嚥下能力）などによって7段階を設定した「スマイルケア食」の分類を示している。スマイルケア食は、かむことや飲み込むことなどの食べる機能が低下した人にも食べやすいよう工夫されていることに加え、おいしさや、食べやすさ、低栄養の改善、食べる楽しみ、見た目の美しさなどにも配慮すべきとされており、このような公的な基準が設定されたことは高齢者の栄養摂取にとって重要な配慮であるといえる。しかし、その一方で我々はこの分類がいずれも咀嚼能力についてかなり低下した状態を対象としていることを認識しておかなくてはならない。

いわゆるオーラルフレイルの入り口に立つ患者にとっては、口腔機能維持の一環として咀嚼機能を維持できるかどうかは大きな価値のある事項である。咀嚼を安全に維持できるかどうかを評価することは、高齢患者にとって日々の食事という有効なりハビリの場を失うかどうかの大きな分岐点を意味していると考えられる。

本講演では、高齢者の咀嚼を維持するための義歯治療のポイントと、大規模災害時の義歯治療への応用も含めて考えてみたい。

(参考図書：「写真と図で使える 超高齢者総義歯座右マニュアル」皆木省吾著：学術研究出版、2015 Amazon)

【ご略歴】

昭和57年 広島大学歯学部 卒業
 昭和61年 広島大学大学院歯学研究科 修了
 昭和62年 国家公務員等共済組合連合会 呉共済病院 歯科医長
 昭和63年 広島大学歯学部 歯科補綴学第一講座 助手
 平成2年 岡山大学歯学部附属病院 講師
 平成7年 米ミシガン大学 客員講師
 平成8年 岡山大学歯学部 助教授
 平成14年 岡山大学大学院医歯学総合研究科 教授
 (所属名称が「医歯薬学総合研究科」に変更となり、現在に至る)

Frailty とは、高齢期に生理的予備能が低下することでストレスに対する脆弱性が亢進し、生活機能障害、要介護状態、死亡などの転帰に陥りやすい状態で、筋力の低下により動作の俊敏性が失われて転倒しやすくなるような身体的問題のみならず、認知機能障害やうつなどの精神・心理的問題、独居や経済的困窮などの社会的問題を含む概念です。(日本老年医学会からのステートメントより)

歯・口の機能低下は、加齢性筋肉減弱症(サルコペニア)や運動器症候群(ロコモティブシンドローム)の前兆とも考えられ、「オーラル・フレイル」の予防がひいては、全身の健康に寄与することもわかってきています。

特に、栄養面からみると、歯・口の健康への関心度が低く、歯周病や齲蝕を放置して重症化を招き、歯を喪失するなどして口の中の機能が低下していくと、滑舌が悪くなったり、食べることができないものが増えたりして、食欲低下やバランスの良い食事を摂ることができず、噛む力や舌の動き、食べる量が低下し、低栄養、代謝量の低下、サルコペニアを引き起こす要因となり、ひいては要介護状態に陥ることとなります。(日本歯科医師会 HP より)

※歯科医師対象の内容となりますが、会員スタッフ・家族の方にも受講いただけます。

※参加ご希望の方は以下にご記入の上、11月24日(火)までにFAXにてお申し込み下さいますようお願いいたします。

(FAX番号 087-851-1120)

学術講演会 参加者名簿 (平成27年11月28日・土)

医院名： _____

ご氏名		ご氏名	
	会員・家族・スタッフ		会員・家族・スタッフ
	会員・家族・スタッフ		会員・家族・スタッフ
	会員・家族・スタッフ		会員・家族・スタッフ
合 計		名	